



令和7年度 すくわくプログラム 報告書

【テーマを設定する】

『 育てる 』

活動③

「お米ってどうやってできるの？」

という『問い』をもとに、

【探究活動を実践する】

●活動内容

いつも食べているおいしいお米。一体どうやって育てているのかわかりたい、自分の作ったお米を見てみたい、食べてみたい！という声から、米作りがスタート。どのような環境で育つのかを観察し、苗植えから収穫まで行った。毎日の水位確認を欠かさず行ったり、暑さ対策を教えてもらい実践しながら世話を続け、鳥による食害についても話し合ったり対策をしたりしながら一連の流れを知ることができた。稲刈りの後は藁をリースにして部屋に飾った。

●子どもたちの様子

「お米を育ててみたい！」と4月から楽しみにしていた子どもたち。食卓に出てくる姿しか知らない児がほとんどで、苗の植え方って？、水の量は？花はどうやって咲く？ここからどうやって実ができるの？と次々に出てくる疑問を、日々世話をすることで少しずつ知っていく。期待でいっぱい反面、育ていくうちに簡単にできるものではないことに気づく。

【環境をデザインする】

●準備した物

育苗箱、苗、鳥よけグッズ(ネット、反射テープ、手作りカラスの模型)

【活動スケジュール】

●人数・時間・場所

4人・正午・菜園コーナー(育苗箱)

【振り返りをふまえた気づき】

●職員カンファレンス

ごはんが大好き！という児がとて多い5才児クラス。今回の「育てる」がテーマの活動の中で、春から最も期待が大きかったのが米作りだった。知っているようで知らない米の育ちを一から知る機会となり、初めての苗植えや毎日の水やりも喜んでいて、育てていくうちに秋まで続く暑さ、鳥による食害など、解決しなくてはいけない問題に直面していく中で、米作りが想像よりもずっと難しいことに気づいていた。結果的に米はあまりできず、食べられるまでには至らなかったが、今自分たちができる限りのことをした結果として受け止め、籾から米を取り出す体験をしたり、とれた米を観察したりして喜んでた。また、刈り取った稲をどのように利用できるかクラス全体で話し合い、藁でリースを作るという意見にまとめ、力を合わせて米作りをした証として、活動を終えた後も長く保育室に飾ることができた。

お米の育ちを自分たちで支え、見守る体験を通して、生きていくうえで身近だったお米が、本当の意味でさらに身近に感じられる体験となった。



